

2025 年 6 月 25 日

**【SUPER GT 第 3 戦 / セパン・インターナショナル・サーキット】
大会直前情報**

2025 年の SUPER GT 第 3 戦は、実に 6 年ぶりとなる海外ラウンドとなります。舞台はマレーシア、クアラルンプール近郊にあるセパン・インターナショナル・サーキット。セパンでの開催は 2013 年以來、12 年ぶりです。

クアラルンプール国際空港から車で 15～20 分の場所にあるセパン・インターナショナル・サーキットは、1999 年に建設された国際サーキットで、日本の GT レースは 2000 年の JGTC 特別戦が初開催。2002 年から 2013 年までシリーズ戦の中の 1 戦として開催されてきました。グランドスタンドを挟むような 2 つのストレートと、中高速コーナーの多さが特徴の全長 5,542m のコースです。細かさや粗さが混在するような、日本のサーキットにはあまりない特殊な路面もこのコースの特徴と言えます。

SUPER GT はシーズンオフの寒い時季に南国のセパンでテストを行うのが恒例で、コロナ禍には一時中断していたものの 2024 年の 1 月に復活。今年 1 月のテストでは、レースの開催時間が夕方になるため、夜間走行を含め 4 日間の走行が行われ、ヨコハマタイヤ陣営としては GT500 クラスの 2 台が参加しました。セパンでのテストは、目前に迫った新シーズンに向けて前年の課題に対して様々な対応をしてきたタイヤを試す機会となっていて、今年に関しても、昨年の課題に対してタイヤの仕様を大きく振ったものを投入し、データを収集。その結果を踏まえ、実戦に向けて国内でも微調整を重ねてきました。特に、日本と違う地域での開催で、暑さという点においては熱ダレへの対策を強く意識し、今回のタイヤを準備しています。

ただし、今大会は決勝レースのスタート時刻が現地時間の 16:30 と夕方のため、昼間の厳しい暑さの中で戦うことはありません。路面温度はこの後に待つ夏の富士大会、鈴鹿大会の昼間帯と同等レベルを想定しています。一方で 6 月は南国特有のスクールの可能性があるため、ドライタイヤとウェットタイヤの交換タイミングを見極めるのが難しいという場面が出てくるかもしれません。

5 月のゴールデンウィークに富士スピードウェイで行われた第 2 戦では、「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI(片山義章選手／ロベルト・メリ・ムンタン選手)」が嬉しいチーム初優勝を飾り、開幕戦で 3 位になった「リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(平手晃平選手／金丸ユウ選手)」とともに 50kg のサクセスウェイトを搭載してセパン大会に挑みます。GT500 クラスの「WedsSport ADVAN GR Supra (国本雄資選手／阪口晴南選手)」と「リアライズコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手／名取鉄平選手)」はここまで苦戦を強いられていますが、心機一転し高温のレースに挑みます。

セパンは過去に両クラスで優勝した経験を持つサーキットですが、良い結果が出るよう、また少しでも速く走れるタイヤをチームに提供できるよう、全力を尽くします。

